



大明小学校

# 校長室から

令和2年7月22日

No. 6

文責 校長 穴山 直樹

## 甘えさせることは大切です



私には26歳の長女と25歳の次女の二人の娘がいます。保護者の皆様方が来校されたときにお子さんと楽しそうにかかわっている姿を見るにつけ、娘たちが小学校時代のことをよく思い出します。あのころは毎日が忙しく、生活が大変だったけれど、本当に楽しかったなあと懐かしく思い出します。



今回は「甘やかすこと」と「甘えさせること」について書きます。前回はほめることについて書きました。ほめて育てることはとても大切です。ほめるとは、その子のよい部分をよいと伝えることです。認めることであり、評価することです。しかし、ほめることと、甘やかすことの線引きは必要です。甘やかすとは、周りの大人の都合で子どもに何かをさせようとしたり、親の都合で子どもに言うことをきかせようとしたりすることです。この甘やかしの例として、子どもができることをさせないで、先回りして大人がやってしまったり、必要以上に干渉したり、危ないから、心配だからと子どもがやろうとしていることをやらせないのも過保護という甘やかしです。

それに対して「甘えさせる」はあくまでも、子どもが主体で、子どものペースが守られている状態です。「甘える」ということは、本来とても良いことなのです。それは、子どもがどうしてもできないことを手伝ったり、子どもの思いを受け止めてそれに応えてあげたりすることで、子どもは愛情を受け取れるからです。相手を信頼しているからこそ、相手に甘えられます。

一方で、子どもの甘えを親が受け止めてあげられないと、子どもは親からの拒絶感を感じ、親から自分は信頼されていないという思いを持つことになります。

十分甘えさせてもらえた子どもは、人を信頼するようになり、情緒も安定します。子どもが成長する過程で、必要なのがこの「甘え」なのです。身近な大人との関係の中で、しっかり甘えさせてもらえた子どもは「自己肯定感」が育っていきます。「自己肯定感」が高まると、失敗しても必要以上に自分を責めることなく、また頑張ろうという意欲に転化できたり、人に助けを求めたり、自分の弱い部分を見せることも恐れません。こうした子どもは、人を信じる力も強く、相手に対する思いやりも深くなります。子どもは甘えが満たされることにより「自分は愛されている」と感じられ、その揺らぐことがない「安心感」が土台となり、成長でき、自立に向かうことができるのです。

それに対して、子どものとき、甘えが満たされていないと、愛されているという実感が持てずに不安になりやすく「自己肯定感」は低くなります。

自分に対しての強い不安が、周囲に対しての不信感につながり、相手の言動に反応しやすく、感情的になり、攻撃的になって人間関係でも摩擦をおこしやすくなります。



今回は少し、理屈っぽくなってしまいました。ほめることと甘やかすこと、甘やかすことと甘えさせること等、生活の中で、頻繁に起こりうることだと思います。「(今の言動は) ほめたのか、甘やかしたのか。」また、「甘やかしたのか、甘えさせたのか。」等、時には振り返ってみることも必要なのかもしれません。